

熱中症と新型コロナウイルス感染症に留意しつつ…

記録的な暑さが続く夏になりました。

どちらも命に関わる健康被害です。今は、熱中症が優先です。(7月1日 市教委保護者宛て通知参照)

・登下校、外での活動はマスクを外します。

(大きな声での会話、長時間の会話は避けるなどの留意点があります。)

一方で、この2週間ほど東京都の感染状況が増大したと同じように、本校でも同様の傾向が見られます。

検温や子供、家族の健康観察(発熱、のどの痛みなど)をしながら登校できるかどうか、判断をいただければと思います。

後3週間、通常の教育活動をできる限りしていきたいと思えます。

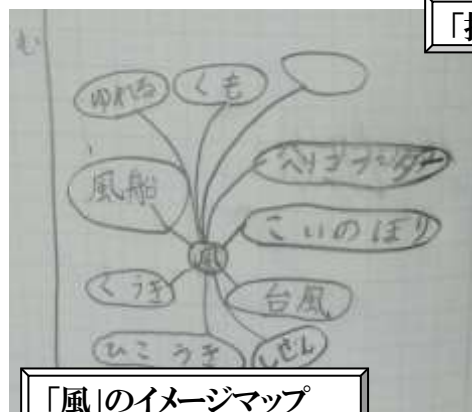
3年生…風「生活経験と結び付け」て問題を見いだす

遠足の際に風船バレーで、風船が風で飛ばされた経験を写真で振り返りました。イメージマップに、「風」という言葉を中心に据え、考えていきます。「こいのぼり」、「台風」など、風に関わるイメージを書き出していきました。「風の力」について、ものを動かす力があることに、気が始めました。

「風の力」の学習だと分かった子供たちに、「指風船作り」をしながら、何もしないのに「指風船」が動く様子を体験させました。自然現象との出会いです。

風船→飛んでいく
ヨット→進んでいく
こいのぼり→ゆれる
たこ→あがる

風の力



「指風船」…何もしないのに回っている!



子供たちは、「風の力」の学習であるということが分かっているの以下の問題を見いだしました。

- ・風の力でどんなものが動くのか
- ・どのくらいの重さの物が風の力で動くか
- ・風の強さで、ものの動きが違ってくるのか

どれも子供らしい発想の問題です。自分たちの力で、実験で確かめられる問題を選択していきます。子供が活発に発言し、子供のやる気を見ることができ、うれしく思いました。

5年生…理科「いのちの誕生」…メダカの卵の観察

理科の学習では、生命について実感する学習があります。「自然を愛する心情や生命尊重の態度を涵養すること」も理科の大事な学習なのです。「メダカの卵の成長」は、まさに「いのち」を感じる学習です。

まず、「解剖顕微鏡」の使い方を学びます。実験技能は、安全面を含め、しっかり教えます。反射鏡は、「太陽の光を直接入れない」、「レンズは卵のギリギリまで近づけ、徐々に離し、ピントを合わせる」など大事な技能です。

解剖顕微鏡の使い方を学ぶ



黒いのは「目」か



実際に卵を見た子供たちは「目がある」、「体が見える感じがする」など、つぶやきながら

観察していきました。もう少しで心臓が動きも見える時期です。生命の神秘や不思議さに素直に反応する子供たち、よい場面に出会うことができました。よい姿です。